

■児童・生徒の学力の状況

○令和7年度全国学力・学習状況調査において、国語と数学の平均正答率が全国の平均正答率とほぼ同じ水準まで向上している。
○7月に全学年で実施した学習に関する意識調査において、7・8年生の約3割、9年生の約2割の生徒が、「難しいと感じる問題や分からない問題に対して、取り組まずにあきらめてしまうことがある。」と回答している。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

○教科書を用いた授業と「授業スタンダード」の1時間の流れを徹底し、生徒自身が日常的に教科書を使って、自分で学習を進める習慣が身につくよう授業展開を工夫する。
○振り返りの活動において、Output（学習内容や主体性の記述）の内容を評価することと同時に、次時の学習活動で課題解決が進むように指導・支援の方法を工夫する。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○学習指導要領の実施に基づき、主体的・対話的で深い学びの視点から、各教科等における資質・能力を育成し、指導と評価の一体化を図る。
○一人一台端末を用いた個別最適な学び協働的な学びの充実を図り、主体的に学習を調整する力の育成を図る。
○「板橋区授業スタンダード」の徹底とともに、「読み解く力」における6つの視点の認識・思考・表現という学習の流れを重視し、確かな学力の定着・向上を図る。
○学校教育になじめない生徒への学びの機会を保障し、家庭と関係機関との連携を図り、生徒が社会的に自律することを旨とする。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 授業スタンダードSに基づいた授業づくり	視点2 読み解く力の育成	視点3 総合的な学習の時間との連携
○各教科と総合的な学習の時間において、生徒に自己選択をさせる活動を意図的に設定し、学習効果について検討し、継続して改善を図る。 ○自己調整をする学習の土台となる基礎的読解力を育成する。	○6つの基礎的読解力において、イメージ同定と具体例同定に焦点化した授業展開を実践する。 ○朝学習の時間に、テキスト教材を用いて基礎的読解力を身につける活動を年間を通して取り組む。	○校外学習における地域探訪や清掃活動、職場体験等を通して、身近な地域の実態を捉え、未来の地域づくりに向けた探究的な学習活動を実施する。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○研究奨励校として、授業スタンダードSに基づいた「自己選択・自己決定・自己調整ができる授業」について研究授業と指導案検討会（校内研修）をそれぞれ学期ごとに1回設定する。 学びのエリアの先生方を中心に、多くの方々に参観していただき、協議会で得たことを基に、年間を通して授業改善に努める。	○身近な地域の課題をSDGsと関連づけて捉え、未来の地域づくりについて探究を深めていく取り組みを行うことで、課題解決に向けて主体的に学習に取り組めるよう、意図的な指導計画を作成し、実践する。	○学習の振り返り記録や単元末の小テスト、家庭学習の課題等にGoogleアプリを積極的に用いることで、生徒自身が学習方法を調整できるように工夫し、個に応じた学びの充実を図る。 ○探究的な学習課題や課題解決を伴う活動において、タブレットを用いる機会を増やし、協働的な学びの充実を図る。

